

◎ミッション2030◎ ニュースレター VOL.2

[新しい協働]フォーラム

第2回「支え合い、できることをしよう——『福祉』にかかわる活動を考える」

聖イグナチオ教会では2017年度から「ミッション2030」に取り組み、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」という各柱で、順次ワークショップを行ってきました。

今年度は「新しい協働」をテーマに、司祭、修道者、信徒の区別なく連携していくことを目指して、教会活動を広く見直すためのフォーラムを全6回の予定で開催いたします。

第2回目フォーラムは2021年7月4日(日)に行われ、教会の福祉に携わる11のグループが活動内容、課題、問題点などを報告し、発表後にはオンライン参加の皆さまとともに分かち合いが行われました。

英神父さまのお話

教皇フランシスコの教会論は、「出向いていく教会」「社会に積極的に関わっていく教会」と非常に積極的で、「自分たちの殻に閉じこもらない」というのが基本的な姿勢です。

そして「野戦病院」がその具体的なイメージです。傷ついた人々が次々と運ばれてきて、その応急処置をする——教会がそうした最前線の施設になれるかどうか。それが今回のフォーラムの一つのヒントになるでしょう。

福祉に関わる活動は、危機的な状況になればなるほど求められるものです。コロナ禍の現在はまさにその危機的な状況であるわけですが、当教会の福祉関連グループのいくつかは感染対策をとりながら、困っている方々のために休まずに活動を継続してきました。素晴らしいことだと思います。

また、国の地震調査委員会は、今後30年以内に70%の確率で首都直下地震が起きると予測しています。そうなったら教会として炊き出しを行い、帰宅困難者を受け入れ、災害ボランティアの手配、救援

物資の配布、傾聴の場の設置など様々な活動が必要になります。いずれも信徒の皆さまの協力なしにはできないことです。今後、具体的な対策を検討する予定ですので、ぜひご協力ください。

どのような社会情勢であっても、苦しんでいる方は大勢います。そうした方々のために、私たちは何をすべきなのか、何ができるのか。今回のフォーラムではその辺りを中心に、グループ間の連携、そして各グループがより一層実りのある活動をしていくためにどうすればいいかを考えていきましょう。

福祉関連グループの報告

◆水曜ティーサロン

第2・第3・第4水曜日の昼ミサ後、信徒の分かち合いの場として、テレジアホールで飲み物のサービスを行っている。ミサや講座に来られた方、ホームレスの方など大勢の方々にご利用頂いている。

◆訪問グループ

終戦後、高齢者や困窮者の家庭を訪問していたのがグループの始まり。今は、支え合うという使命を受け継いで「合同追悼ミサ」「長寿

の集い」の運営、教会報の郵送などを行っている。高齢の信徒が教会に何を望んでおられるか、どのようなつながりを求めているかを考え、活動していきたい。

◆富士聖ヨハネ学園支援グループ

当教会が福祉活動に力を入れると決めた1977年、支援先に選んだのが心身障がい者施設の富士聖ヨハネ学園だった。年1回開かれる学園祭で模擬店を出したり、当教会の教会祭やバザーでの収益金を献金し、支援している。

◆ベルマーク

教会内外の方々が集めてくださったベルマークの整理集計を行っている。集計後のベルマークは、富士聖ヨハネ学園で使われるパソコンや車椅子など備品の購入に充て、現在までに400万円分以上の寄附をすることができた。

◆四ッ谷おにぎり仲間

路上生活者など生活困窮者を支援するために、おにぎりの製作、生活補助申請のサポートなどを行っている。教会のグループなので、できることに限界がある。先日もそうした事例を経験した。一人一人の命を守るために、外部団体との

協働の大切さを痛感している。

◆音訳サービス

目の不自由な方のために、教会報『マジス』、『カトリック新聞』、『毎日のミサ』など様々な印刷物を読んで録音し、発送している。本格的な活動には研修が必要だが、適任者がいればご紹介頂きたい。

◆タラ友の会

1976年、フィリピンの愛徳カルメル会とともに同国のハンセン病の病院建設、家族の支援などを行ったのが始まり。現在はそれらの病院を訪問して患者さんと交流したり、山岳民族の子どものための寮建設、マニラや近郊の大学生の奨学金の支援等をしている。資金集めが課題である。

◆ザーカイ

主日10時ミサの手話通訳、ミサ後のろう者の方々との交流、教会行事などの手話通訳を行っている。スタッフは週2回2時間ずつ、Zoomで集まって勉強している。手話通訳は10年以上の経験を要する専門的なもの。技術をお持ちの方はぜひご参加を。

◆カレーの会

月曜日の朝、生活困窮者のためにカレーライスの炊き出しとサービスを行っている。コロナ禍以前は飲み物サービス、健康相談、法律相談も行い、集まった方々と交流もしていたが、現在は密な活動ができないのが悩み。また、使い捨て容器を使用しているので、リデュース・リユースが今後の課題。

◆傾聴グループ

話を聴いてほしい、心のなかに不安や悲しみを抱えているという方のために、第2・第3・第4水曜日にお話を聴かせて頂く場を作っ

ている。傾聴はカウンセリングと違い、ただお話を聴くだけが、祈りながら聴き、寄り添うことで、来られた方たちが明るく変わられることを実感している。コロナ禍なので、どこにいても参加して頂ける仕組みを模索中。

◆あしたのいえプロジェクト

2020年に本格始動し、おもに2つの活動を行っている。一つは、さまざまな理由で住まいを失った方が、安心して生活できるような一時的な住まいを提供すること。もう一つは、教会内外の団体等と連携し、社会福祉に関する活動を行うこと。その一環として、年始とGWに「大人食堂」を開催した。だれもが暮らしやすい明るい未来のために尽力したい。

◆海外医療援助切手グループ：使用済み・未使用切手を集めて整理し、日本キリスト教海外医療協力会に送り、コレクター向けに販売した収益を海外医療援助に役立てる。（*欠席のため資料より抜粋紹介）

信徒の分かち合いから

各報告の後、ヨセフホールに来られた方々、インターネットを通して参加された方々が分かち合いを行い、感想や意見を述べられました。抜粋してご紹介します。

「私は勤務先でベルマークや切手を集めて、教会に届けている。同じような品物ならベルマークのついているものを買って、持ってきてくださるという方もいる」

「自分に何ができるかを考えさせられた。主聖堂の後ろには『タラ友の会』への献金箱がある。切手やベルマークを捨てないという意識も大切。各自ができる方法で協働

し、支え合っていくことが大事」

「どうすれば活動に参加できるのか、もっと具体的に知りたかった。SNSを活用すれば、若者たちにも声をかけられるのではないかな」

「活動に関心があっても、仕事や学校で参加できない人も多い。平日夜や週末に参加できる活動があればアピールしてほしい」

「コロナ禍で、外部の人が教会に入ってくることに不安を感じている人もいる。合意をとる必要はないが、丁寧な説明をしてほしい」

英神父さまのまとめ

多くのグループが多様な活動をしていることを改めて感じました。一人一人に召し出しがあります。それを自らに問いかけ、意識しながら、何をすべきか、何ができるかを考えながら歩いていきましょう。

今年4月に「教会活動グループ規約」を改訂しました。活動グループとして未登録のグループはぜひ登録し、他との連携、協働を深めて頂ければと思います。

「UAP's イエズス会使徒職全体の方向づけ」では、エコロジーが重要なテーマとして掲げられています。世界的にも緊急性が非常に高いテーマです。教会でも今後エコロジーに本格的に取り組んでいくつもりです。

◆次回予告◆

第3回「新しい協働フォーラム」は2021年10月17日(日)13時～15時の予定です。

テーマは【教会の「信徒交流」に関わる活動を考える(仮題)】です。詳細は教会ホームページ、ポスター等をご覧ください。